

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援ぽっとまむユニック		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 22日		2025年 10月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	2025年 9月 22日		2025年 10月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様が気持ちよく過ごせるような環境整備を心がけている。	毎日の清掃や消毒といった衛生面での取り組みの徹底や、安全な環境を維持するための備品購入や修繕を常に意識すると共に、毎月定期点検を実施している。	常にお子様にとっての安心安全を意識できるよう、意識改革や課題発見につながる研修を実施する。
2	支援につながる様々な事案に、丁寧に対応できる。	毎日の支援前ミーティングや月1回の部署ミーティング、ケース検討会などを必ず実施することで、お子様への対応や支援の見直しなどを職員全体で検討し、共通認識を持った上で対応している。また、職員用連絡ノートを使用して周知を行い、すぐに変更が必要な事案にも迅速に対応している。	連絡帳やモニタリング以外にも、保護者様と情報共有が行えるような、情報発信ツールの検討を行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援後の振り返りの時間確保が難しく、職員が支援内で感じた疑問や不安に迅速に対応できていない。	パート職員や送迎担当職員など、業務内容によって退勤時間が異なり、支援後に職員が集まって情報交換することが難しい。支援後に全員から情報を収集する職員を配置し、収集した情報を翌日の支援前にミーティングで検討しているが、一週間に1~2回しか勤務しない職員もいるため、細かい状況の聞き取り分析に時間がかかってしまう。 また、個人個人の想いに対しては、現場職員だけでは問題解決に至らないケースも多いため、管理者がゆっくり話を聞く場を設定する必要があり、こちらも時間がかかってしまうことがある。	情報収集から課題解決案の検討までを比較的短時間で済ませよう配慮しているが、担当職員が休みであったり、勤務時間の都合上、管理者と話す時間を確保するのが難しかったりするなど、状況によって意思疎通が難しいことも多く発生しているため、職員間でのSNSを有効に活用し、情報収集から周知までを短時間で実施できるよう整備していく必要がある。
2	家族支援に向けた様々な取り組みが行えていない。	コロナ感染前は、事業所内研修に家族参加の機会を設けるなど、家族向け支援にも取り組んでいたが、コロナ感染を期に中止し、現在に至っている。	最近では行政や関係機関から様々な研修の案内をもらい、家族向けにも情報提供を呼びかける物が増えてきた。その中で、関係機関に協力を依頼し、現在、家族支援に向けた様々な取り組みを検討中で、来年度には実現できるよう進めていきたい。